

「日本原子力研究開発機構の
次期中長期目標の策定についての『見解』への
『補足的見解』（阿部）

2015. 2. 10.

1. 「中長期目標」は、原子力研究開発機構を「我が国における原子力に関する唯一の総合的研究開発機関」と認めながらも、「核融合研究開発及び量子ビーム応用研究の一部を機構から分離し」、機構を残余の分野に「特化」、「重点化し」、「テーマを厳選する」ことを求めている。これはともすれば機構の総合的研究開発機関としての自負と意欲を削ぐことになりかねないので、機構が依然として我が国における原子力分野における重要な研究開発の拠点であり、ハブであり続けることを確認し、職員が意欲と希望を持って働き続けられるよう配慮を望みたい。
2. 「中長期目標」は 60 年前に策定された原子力基本法にある「高速 増殖炉……の技術の開発」との記述を引用した上で、『もんじゅ』を廃棄物の減容化・有害度低減や核不拡散関連技術等の向上のための国際的な研究拠点と位置付け、「高速炉技術開発の成果を取りまとめる」とし、さらに「再稼働に向けて国民の理解を得ることが必要不可欠であり、」としている。しかし、これまで得られた説明では「国民に対してわかりやすい形で」納得の得られる説明が得られたとは感じられないので、一層の努力を求めたい。
3. 「中長期目標」は第 4 世代原子力システムに関する国際フォーラムに言及している。フォーラムの目的はより安全性が高く、経済性に優れ、環境にやさしく、核拡散抵抗性の高いシステムを開発することであり、我が国としても大いに共有し得る目標である。「目標」は国際フォーラム参加の目的を高速炉の基準策定に限定しているが、高温ガス炉・熔融塩炉などを含めより広い視野から積極的に参加することを示唆したい。